



テクノロジーに、ハートを込めて。

2014年3月期 (第38期)

決算説明会資料

株式会社フォーカスシステムズ

2014年5月30日 (金)

本資料は、2014年3月31日現在において入手可能な情報及び将来の業績に与える不確実な要因に係る2014年5月30日現在における仮定を前提としております。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。従って、当社グループとして、その確実性を保証するものではありません。

ごあいさつ

I . 2014/3期(第38期)決算について	P3 ~ 14
II . 2015/3期(第39期)方針および業績予想	P15 ~ 17
III . ご参考	
1.当社の概要	P19 ~ 20
2.決算データ推移	P21
3.当期トピックス	P22 ~ 23
4.当期製品トピックス	P24 ~ 25
5.ブランディング	P26 ~ 27
6.コミュニケーション・ツール	P28 ~ 30



I .2014/3期(第38期)決算について



- ① 組織間の連携強化
- ② 事業の優先順位の明確化
- ③ 環境変化への対応
- ④ 営業活動の強化

(百万円)	2013/3期 実績	2014/3期 計画	2014/3期 実績	前期比		計画比	
				増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	12,353	12,500	14,146	1,793	14.5%	1,646	13.2%
公共関連事業	4,311	4,437	4,668	356	8.3%	231	5.2%
民間関連事業	7,461	7,456	8,440	978	13.1%	984	13.2%
セキュリティ機器 関連事業	580	607	1,037	456	78.7%	430	70.8%
営業利益	439	300	887	448	102.1%	587	195.7%
経常利益	416	250	849	433	104.1%	599	239.6%
純利益	241	100	455	214	89.0%	355	355.0%

(注)平成26年2月7日に業績予想値の修正を行っておりますが、上表における「2014/3期 計画」は、平成25年5月9日発表の予想値を記載しております。

- ・ 公共・民間・セキュリティ機器、各事業分野ともに、計画を大幅達成。
- ・ 配当(予定) 20円(うち特別配当10円)

単位：百万円

区分	2012/3期	2013/3期	2014/3期
(資産の部)			
流動資産	5,444	5,559	6,428
固定資産	7,764	5,636	5,408
有形固定資産	3,781	3,746	3,741
無形固定資産	44	38	60
投資その他の資産	3,937	1,851	1,606
資産合計	13,208	11,195	11,837
(負債の部)			
流動負債	3,942	3,769	4,102
固定負債	3,218	2,556	2,705
負債合計	7,161	6,326	6,807
(純資産の部)			
資本金	2,905	2,905	2,905
資本剰余金	1,468	1,468	1,468
利益剰余金	199	367	719
自己株式	△434	△706	△706
評価・換算差額等	1,908	833	642
純資産合計	6,047	4,868	5,029
負債純資産合計	13,208	11,195	11,837

資産は、前事業年度末に比較し641百万円増加しました。これは主に投資有価証券の減少297百万円があった一方で現金預金の増加513百万円、売掛金の増加483百万円によるものであります。

負債は、前事業年度末に比較し481百万円増加しました。これは主に短期借入金の減少184百万円があった一方で、未払法人税等の増加363百万円、社債の増加324百万円によるものであります。

純資産は、前事業年度末に比較し160百万円増加しました。これは主にその他有価証券評価差額金の減少191百万円があった一方で、繰越利益剰余金の増加351百万円によるものであります。

単位：百万円

区分	2012/3期	2013/3期	2014/3期
売上高	11,909	12,353	14,146
売上原価	10,453	10,796	12,181
売上総利益	1,455	1,557	1,965
販売費及び一般管理費	1,503	1,118	1,077
営業利益又は営業損失(△)	△47	439	887
営業外収益	80	64	54
営業外費用	91	87	92
経常利益又は経常損失(△)	△58	416	849
特別利益	569	532	—
特別損失	9	727	3
税引前当期純利益	501	221	846
法人税等	349	△19	390
当期純利益	151	241	455

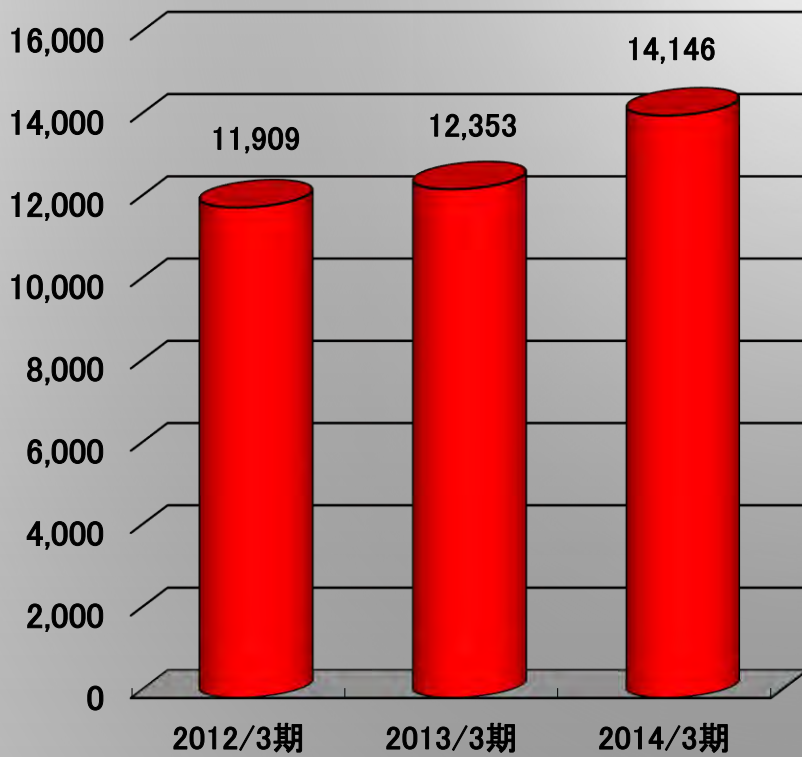
売上高は、前事業年度に比べ1,792百万円増加しました。
公共関連事業が356百万円、民間関連事業が978百万円、セキュリティ機器関連事業が456百万円と、全てのセグメントで売上高が増加しました。
売上原価は1,384百万円増加し、売上総利益は407百万円増加しました。

売上高の増加に伴い、営業利益は前事業年度に比べ448百万円の増加となりました。

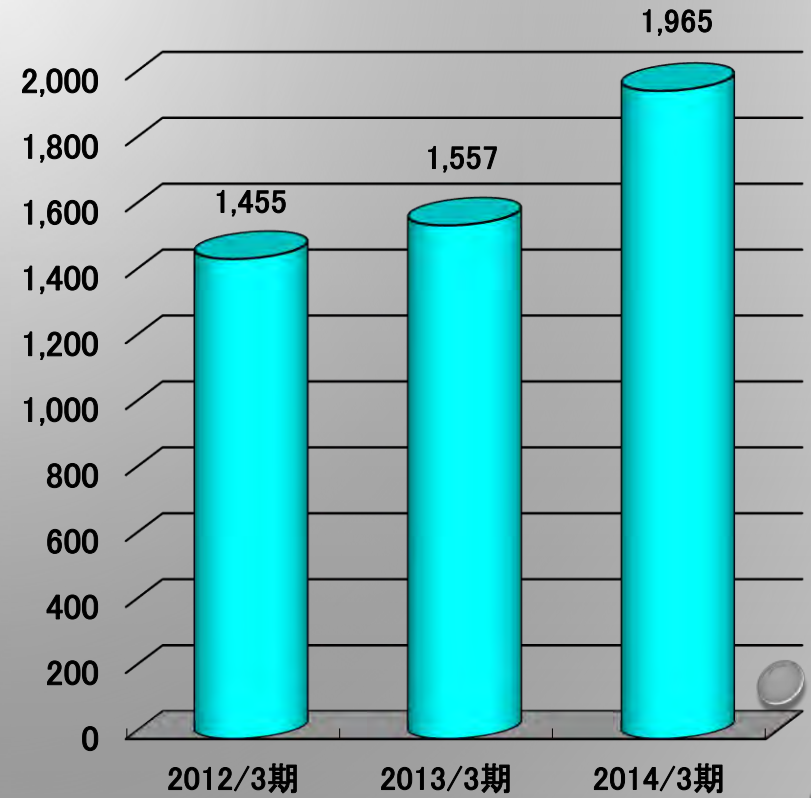
特別利益は、発生しませんでした。
前事業年度、前々事業年度における特別利益は、主に投資有価証券売却益、保険解約返戻金によるものです。
特別損失は、前事業年度に比べ723百万円減少しました。
前事業年度における特別損失は、主に役員退職慰労金によるものです。

上記の結果、当期純利益は455百万円となり、前事業年度に比べ214百万円の増加となりました。

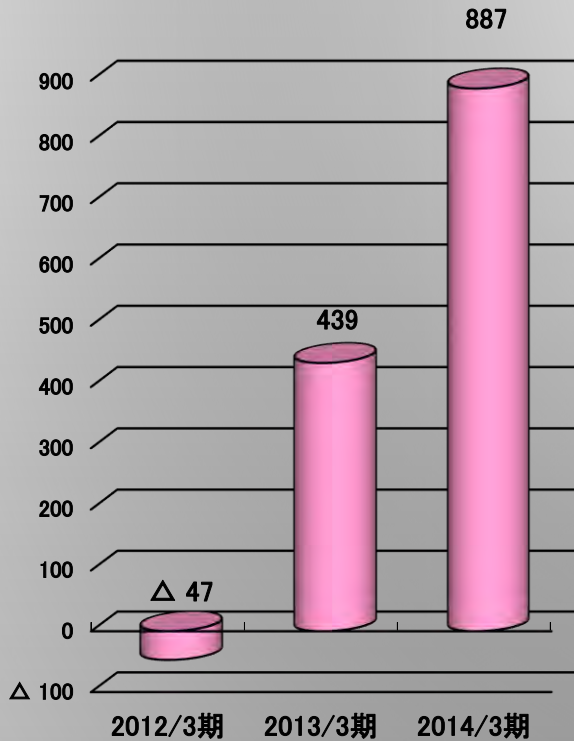
売上高 (百万円)



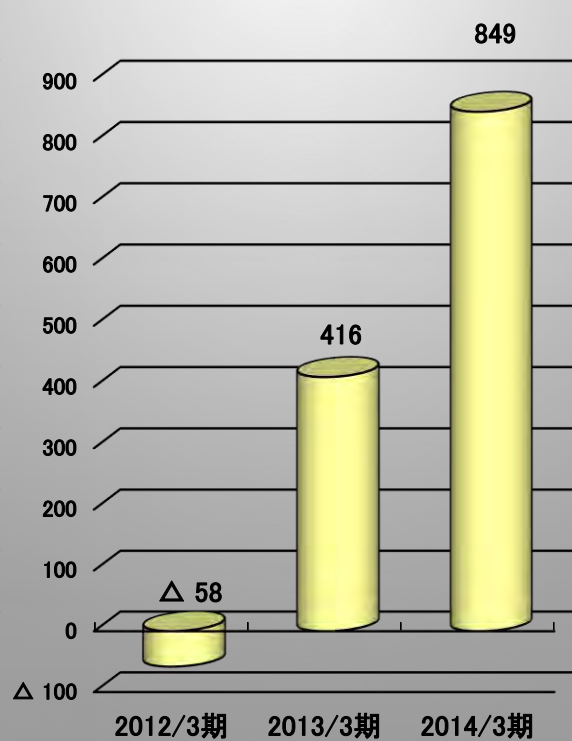
売上総利益 (百万円)



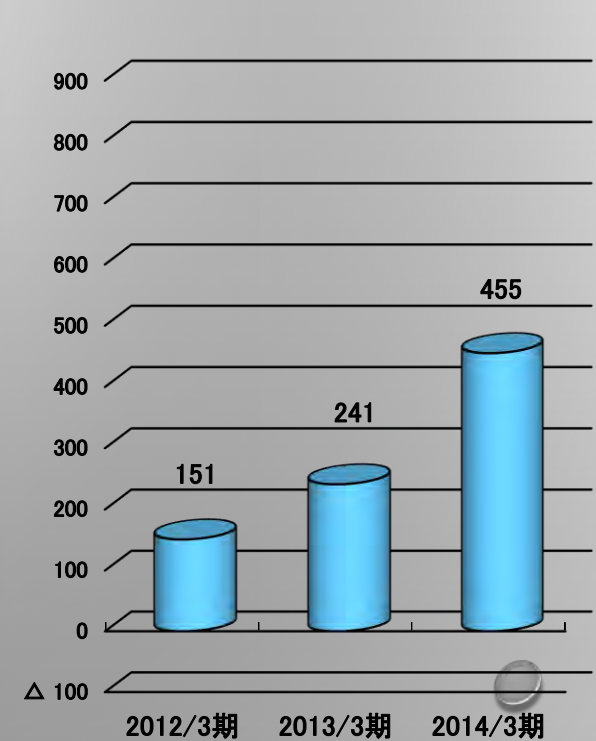
営業利益または営業損失(△)
(百万円)



経常利益または経常損失(△)
(百万円)



当期純利益
(百万円)



(百万円)

	株主資本							評価・換算 差額等	純資産 合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金	自己 株式	株主 資本 合計	その他 有価証券 評価 差額金	
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計	その他利益 剰余金				
					繰越利益 剰余金				
当期首残高	2,905	749	718	1,468	367	△706	4,035	833	4,868
当期変動額									
剰余金の配当					△103		△103		△103
当期純利益					455		455		455
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)								△191	△191
当期変動額合計	—	—	—	—	351	—	351	△191	160
当期末残高	2,905	749	718	1,468	719	△706	4,386	642	5,029

(百万円)

区分	2012/3期	2013/3期	2014/3期
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	314	△1,020	667
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	442	875	△119
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	65	56	△32
IV 現金及び現金同等物の増減額	822	△89	514
V 現金及び現金同等物の期首残高	1,662	2,484	2,395
VI 現金及び現金同等物の期末残高	2,484	2,395	2,910

I 営業活動による
キャッシュ・フロー

当事業年度は、667百万円の収入がありました。主な内訳は、税引前当期純利益846百万円等によるものです。

II 投資活動による
キャッシュ・フロー

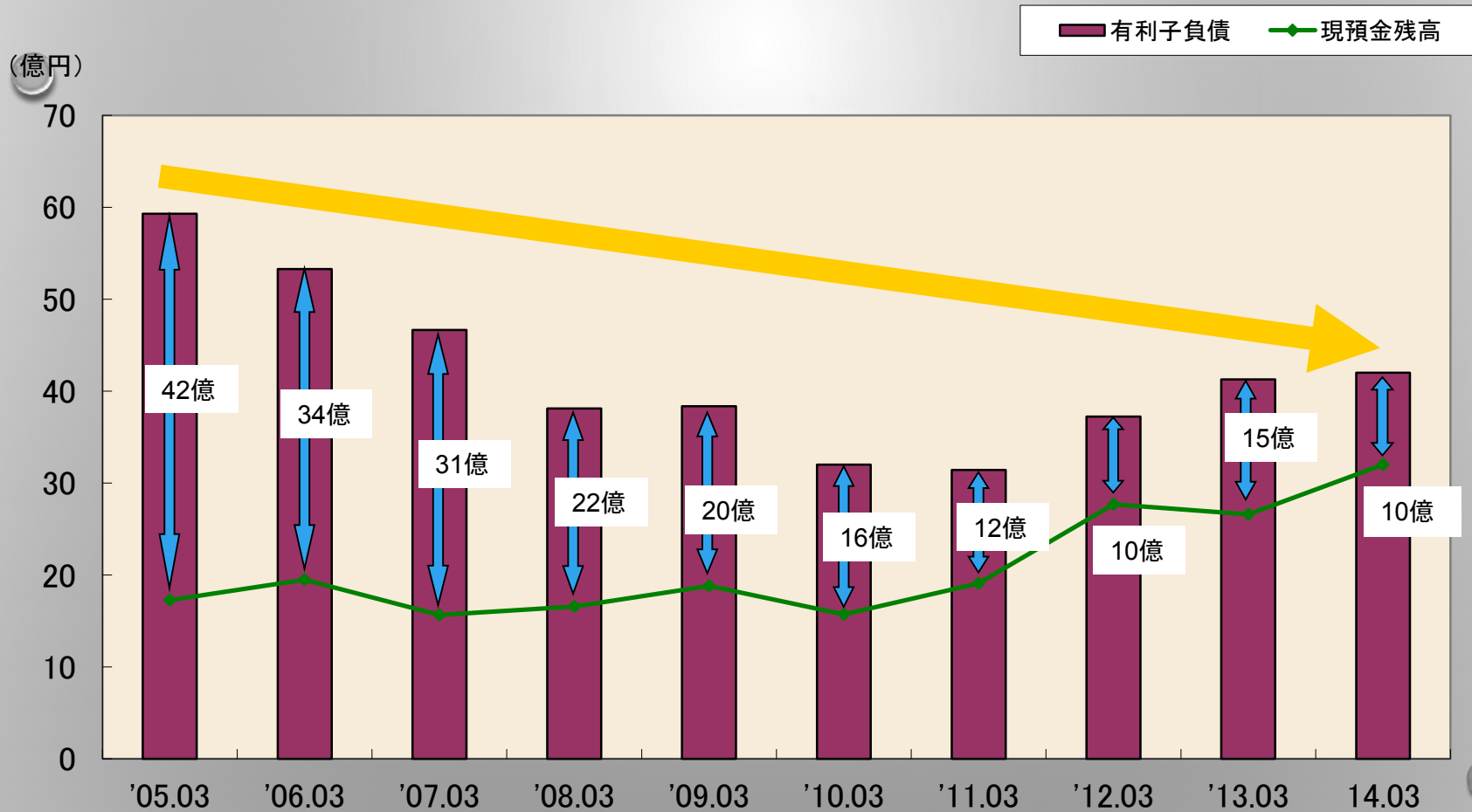
当事業年度は、119百万円の支出がありました。主な内訳は、有形固定資産の取得による支出44百万円、保険積立金の積立による支出41百万円、差入保証金の差入による支出27百万円等によるものです。

III 財務活動による
キャッシュ・フロー

当事業年度は、32百万円の支出がありました。主な内訳は、長期借入れによる収入1,380百万円があった一方で、長期借入金の返済による支出1,505百万円等によるものです。

VI 現金および現金同等物の期末残高

上記の結果、当事業年度における現金及び現金同等物は、前事業年度末に比較して514百万円増加し、2,910百万円となりました。

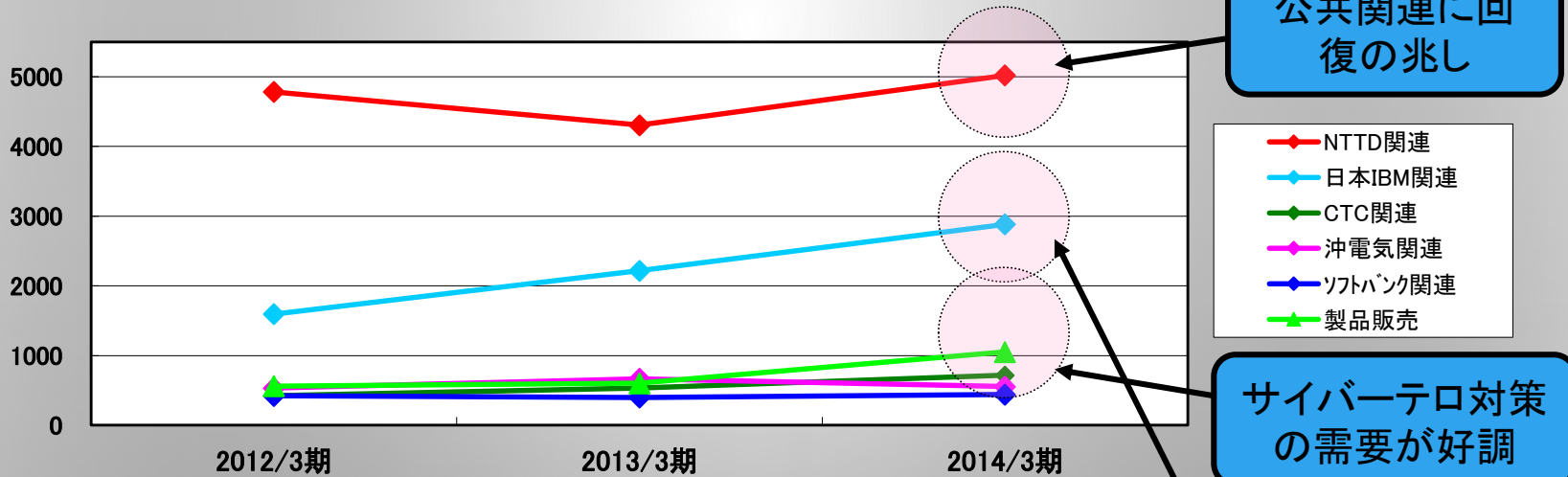


9年で、32億の改善

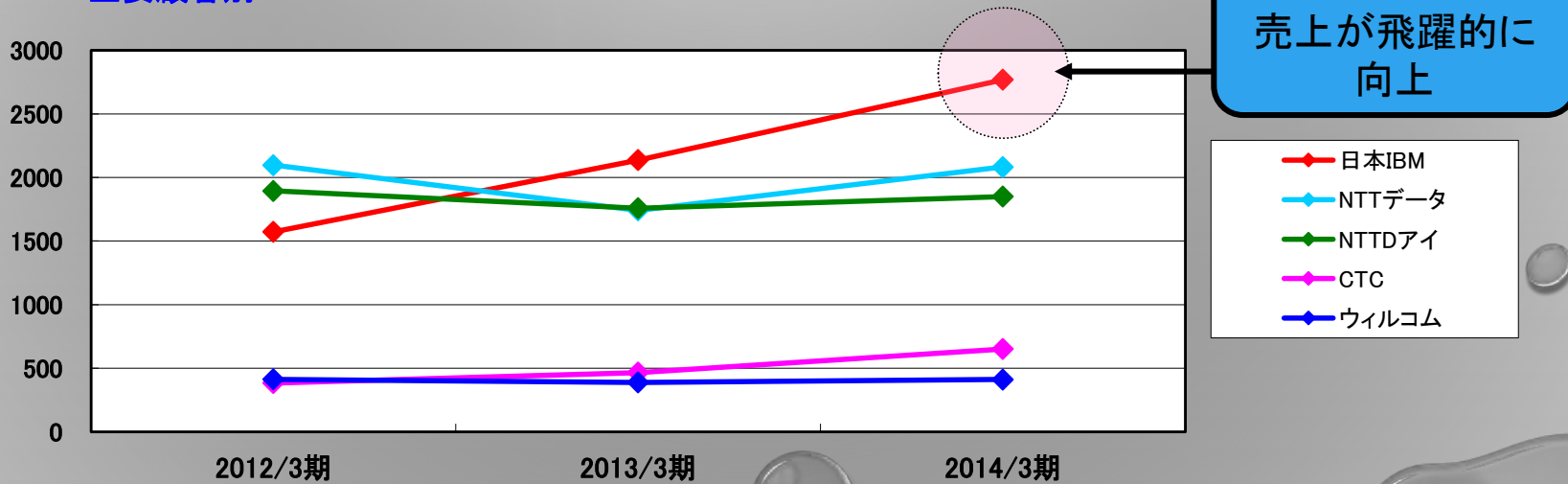
単位: 百万円

	売上高				
	2011/3期	2012/3期	2013/3期	2014/3期	
公共関連	5,082	4,717	4,311	4,668	民主党への政権交代以降、計画見直し、予算縮小など、厳しい状況が続いていたが、政府発信の「世界最先端IT国家創造宣言」等に基づく公共案件の増大が後押しした。
民間関連	5,905	6,695	7,461	8,440	企業業績の回復を背景にインフラビジネスを中心に受注を増やし、売上は順調に増加。しかし顧客からのコスト削減要求は厳しい。
セキュリティ機器関連	414	496	580	1,037	サイバー犯罪対策製品の強化により官公庁関係が順調。補正予算が後押しした上半期の好調な受注に加え、官公庁予算の影響による受注が増加。

顧客グループ別



主要顧客別



Ⅱ. 2015/3期(第39期) 業績予想



(百万円)	2014/3期 通期実績	2015/3期 通期予想	前期比
売上高	14,146	14,500	354
営業利益	887	900	13
経常利益	849	850	1
当期純利益	455	500	45

予見されるビジネスチャンスをより確実なものとするため、今後数年の事業展開を睨み、技術者の採用・育成などへの投資を行う予定。

- ① 需要が潤沢であるインフラビジネス → 「要員の育成」
- ② 運用業務 → 「シェアの拡大」、業務アプリケーション → 「専門技術への取組み」
- ③ ビジネス拠点 → 名古屋を含めた各拠点の連携による、効率的、友好的な組織運営

(円)	2014/3期 通期実績	2015/3期 通期予想	配当性向
1株当たり年間配当金	20.00	20.00	27.7%

第38期配当(予定) 1株当たり20円(普通配当10円、特別配当10円)
 第39期配当(予想) 1株当たり20円(普通配当10円、特別配当10円)

①最高のサービスを提供するために…

②働きがいのある会社を作るために…

③お客様、投資家、株主様から信頼されるために…

④社会から必要とされる会社となるために…

Ⅲ. ご 参 考

1. 当社の概要
2. 決算データ推移
3. 当期トピックス
4. 当期製品トピックス
5. ブランディング
6. コミュニケーション・ツール



経営理念

「社員すべてが心と力を合わせ、企業の発展と成長を通じて、
未来のより良い環境作りに貢献する。」

経営ビジョン

私たちは、以下の3つの責任を果たしていきます。

1. 個人責任

人間性と技術力を磨き、最高のサービスをお客様に提供します。

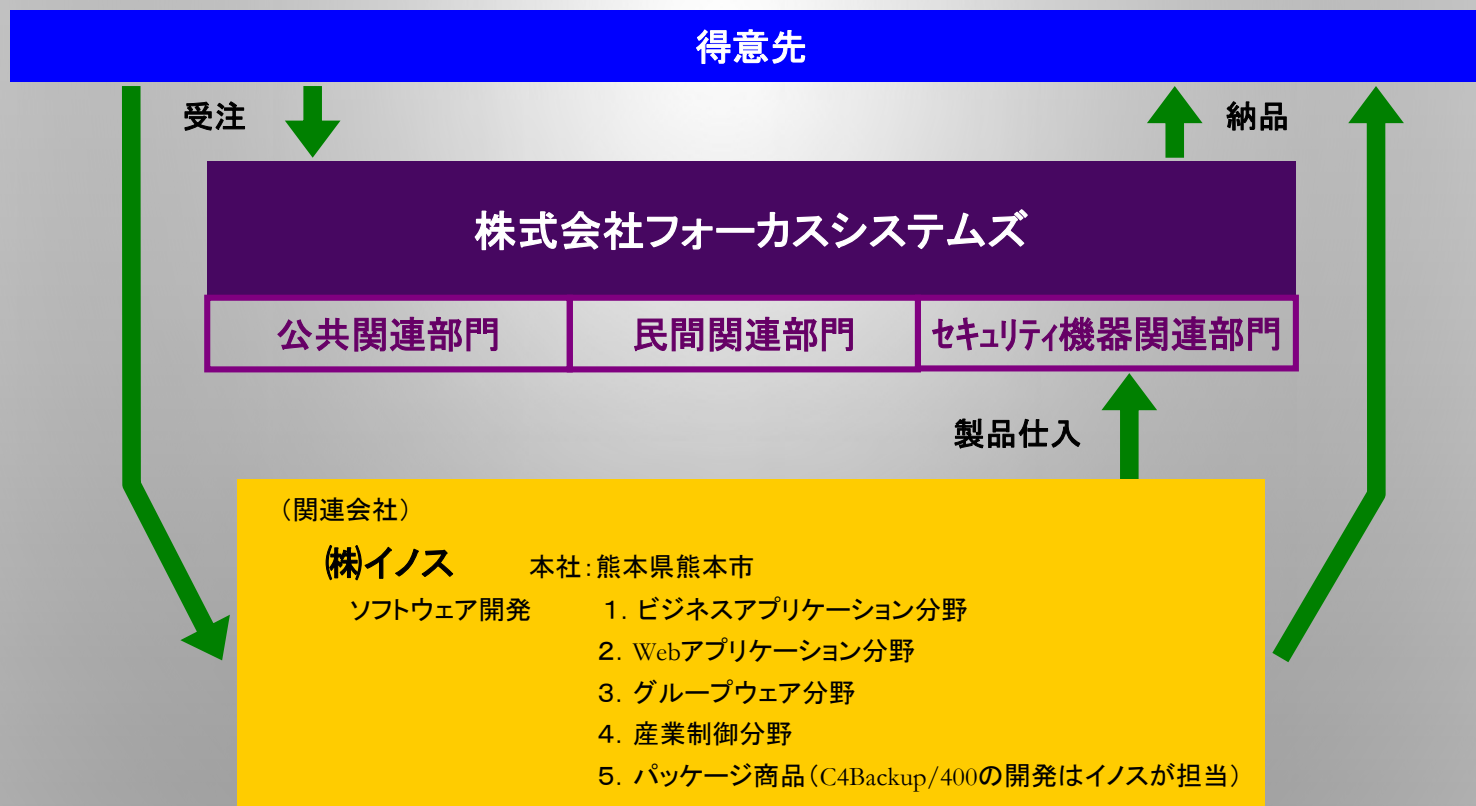
2. 企業責任

社員相互が信頼し合い、安心かつ働きがいのある会社を作ります。

3. 社会責任

お客様、投資家、株主から信頼され、社会から必要とされる会社を作ります。

企業集団の状況



関連会社の状況 (平成26年3月)

社名	持分 (%)	売上高 (千円)	経常利益 (千円)	純利益 (千円)
(株)イノス	20.0	853, 189	15, 588	△2, 764

非連結通期	2008/3/31	2009/3/31	2010/3/31	2011/3/31	2012/3/31	2013/3/31	2014/3/31
決算年月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月	平成26年3月
売上高(千円)	12,251,187	12,041,114	11,702,747	11,401,654	11,909,800	12,353,938	14,146,242
営業利益(千円)	332,158	61,496	127,368	187,847	△47,127	439,240	887,789
経常利益(千円)	283,210	13,687	88,538	145,650	△58,532	416,311	849,751
当期純利益(千円)	240,970	△155,840	△157,384	86,844	151,563	241,130	455,647
資本金(千円)	2,905,422	2,905,422	2,905,422	2,905,422	2,905,422	2,905,422	2,905,422
発行株式総数(千株)	9,195	9,195	9,195	8,146	8,146	8,146	8,146
純資産額(千円)	5,403,970	4,732,367	4,677,323	5,045,697	6,047,149	4,868,962	5,029,600
総資産額(千円)	10,745,545	9,895,643	9,060,966	10,129,135	13,208,330	11,195,332	11,837,231
1株当たり純資産額(円)	605.70	546.45	540.09	619.37	821.66	703.26	726.46
1株当たり配当額(円)	10.00	0	0	10.00	10.00	15.00	20.00
1株当たり当期純利益(円)	26.68	△17.64	△18.17	10.20	19.52	34.03	65.81
自己資本比率(%)	50.3	47.8	51.6	49.8	45.8	43.5	42.5
自己資本利益率(%)	4.6	—	—	1.8	2.7	4.4	9.2
配当性向(%)	37.5	—	—	98.0	51.2	44.1	30.4
従業員数(人)	768	827	867	895	882	899	941
株価 年度高値(円)	560	537	450	600	659	679	858
株価 年度安値(円)	350	375	211	220	418	552	442

平成26年2月7日

業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ（1/2）

平成25年5月9日付当社「平成25年3月期決算短信」において発表いたしました平成26年3月期（平成25年4月1日～平成26年3月31日）の業績予想及び配当予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 平成26年3月期 業績予想数値の修正（平成25年4月1日～平成26年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 12,500	百万円 300	百万円 250	百万円 100	円 銭 14.44
今回修正予想(B)	13,900	710	680	370	53.44
増減額(B-A)	1,400	410	430	270	—
増減率(%)	11.2%	136.7%	172.0%	270.0%	—
(ご参考)前期実績 (平成25年3月期)	12,353	439	416	241	34.03

2. 修正理由

国内景気は、アベノミクスを背景に、企業収益の改善や個人消費の拡大が見られ、穏やかに回復しつつあり、企業のIT投資も改善傾向が見られます。このような状況の中、当社の売上高は、全セグメントにおいて好調に推移しております。これに伴い、売上高、営業利益、経常利益、当期純利益について、前回発表予想を上回る見込みであります。

平成26年2月7日

業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ (2/2)

3. 配当予想修正

業績予想を上記のとおり増額修正いたしましたので、これに伴い配当予想も修正いたします。

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
前回予想 (平成25年5月9日発表)	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 —	円 銭 12.00	円 銭 12.00
今回修正予想	—	—	—	20.00 (普通配当 10.00) (特別配当 10.00)	20.00 (普通配当 10.00) (特別配当 10.00)
当期実績	—	0.00	—	—	—
前期実績 (平成25年3月期)	—	0.00	—	15.00 (普通配当 10.00) (記念配当 5.00)	15.00 (普通配当 10.00) (記念配当 5.00)

(注)上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は今後の経済情勢等により予想数値と異なる可能性があります。

以上

2013年7月

電子透かし製品、販売開始



事業譲渡により、電子透かし製品の販売を開始しました。

・ACUAGRAPHY PICTUREMARK(静止画)

ホームページの写真やデジタル写真集などいろいろな静止画に電子透かし情報を入れるためのソフトウェアです。デジタル画像の不正コピー抑止や著作権管理、画像のバージョン管理などに利用できます。

・ACUAGRAPHY MOVIE MARK(動画)

電子ファイルになった動画コンテンツに電子透かし情報を入れるためのソフトウェアです。違法に動画サイトにアップロードされた動画コンテンツ等を自社の著作物か判定するのに利用できます。

・ACUAGRAPHY AUDIOMARK(音声)

配信用の音楽ファイルなどに透かし情報を入れるためのソフトウェアです。違法に音楽サイトにアップロードされた音楽ファイル等を自社の著作物か判定するのに利用できます。

・ACUAPRINT(地紋)

電子ファイルから印刷された印刷物に透かし情報をいれるためのソフトウェアです。印刷物の真偽の判定や誰が印刷したかの追跡に利用できます。

2013年8月28日

デジタル・フォレンジック研究会より10周年感謝状

10周年を迎えた特定非営利活動法人デジタル・フォレンジック研究会(IDF)が創設された2004年8月から現在に至る迄、弊社がIDFの事務局として運営を支援し、その諸活動への積極的な参加及び支援を行ってきたことに対する感謝として、8月23日(金)開催の「特定非営利活動法人デジタル・フォレンジック研究会『創設10周年記念表彰式』」において、感謝状と記念盾の贈呈を受けました。

2013年9月17日

ACCESSDATA 社公認フォレンジックトレーニング独占契約を締結、最新版FTK5 も販売開始

大手デジタルフォレンジック企業の米国アクセスデータ社(米国ユタ州リンドン)と、日本における公認フォレンジックトレーニング提供のための独占契約を締結致しました。

認定トレーナーによる公認トレーニングを開催し、「FTK」をコンピュータ解析調査に活用される官公庁・法執行機関調査官や大手企業IT担当のお客様に対して最新の知識を身に付けられるトレーニングをご提供すると同時に、ビジュアライゼーション等の新機能を標準搭載したFTK5の更なる販路拡大に繋がります。

アクセスデータ社は、フォレンジック業界におけるリーディングカンパニーの一社であり、世界中で利用されているフォレンジックソフトウェアFORENSIC TOOLKIT「FTK」のメーカーです。「FTK」は、コンピュータなどの電子機器の調査・解析に必要な検索・復元・データ取得・パスワード解析・レジストリ解析・マルウェア解析機能を全て備えた包括的なフォレンジックソフトウェアです。最新バージョンのFTK5では、VISUALIZATION(視覚表示機能)などが標準で搭載された他、オプション機能としてCERBERUS(マルウェアトリージ機能)を備えており、より一層活用場面が広がりました。

コーポレートロゴマークに込められた意味をもう一度再確認し、次の10年へ。

コーポレートロゴマーク



未来に渡って、新しいものを生み出し続ける企業姿勢。

フォーカスシステムズのロゴマークは、「未来」「誕生」を想起させるタマゴをモチーフとした楕円形のパーツと、「企業理念」「生命のぬくもり」を表した核となる円のパーツで構成されています。円のパーツから右上方へと広がるその形は、「理念とハートを大切に、未来に渡って新しいものを生み出し続けるフォーカスシステムズの姿勢」を表現しています。ロゴマークの色はAubergine(オーベルジーヌ)といい、調和・安定・若さ・積極性・情熱を表しています。

コーポレートスローガン

「テクノロジーに、ハートを込めて。」

ますますITが必要不可欠になってくる時代。そんな時代において、カギとなるのは「人間力」に他なりません。

私たちフォーカスシステムズは、仕事に対する情熱、人に対する思いやりを大切に、優れた技術力や製品を提供し、社会に貢献し続けます。

目に見える形で表現しづらいITの仕事や会社を、強く印象付けるキャラクター

コーポレートキャラクター



フクロウの持つ
 ・知恵のイメージ
 ・猛禽類特有の強い視力
 ・360度を見渡す広い視野
 という特徴が、

フォーカスシステムズの
 ・あらゆる課題を解決に導くトータルソリューションの可能性
 ・未来へのビジョン
 ・さまざまな分野への挑戦の姿勢
 を表しています。

特徴的な白い体と青い眼は、企業の唯一性を表し、
 独創性に富んだソリューションを提案できる企業であることを示しています。

PRキャラクター



秘書ふくえ

28歳アラサー女子

森社長の敏腕秘書。種類はオオメンフクロウ(?)。
 とても目がよく、遠くから社長を狙うスナイパーも2秒で発見する。
 仕事の腕は確かだが、
 口調は天然で喋ると語尾が必ず「フォー」になってしまう。
 一時期はやった某芸人の口調に似ていると言われるのが悩み。



公式WEBサイト



昨年8月にリニューアル。
<http://www.focus-s.com/>

ポイント①
WEBマガジンの発行

ポイント②
Facebookページの開設

WEBマガジン

ウェブマガジン「人跡森踏」を通して、フォーカスシステムズのマネジメント・人に対し誠実に取り組み、常に向上を続ける姿勢をお伝えしていきます。

【シリーズ紹介】

・いま、あの人に訊きたい

弊社代表、森啓一がマネジメントのプロフェッショナルであるビジネスパーソンから、対談を通して経営に役立つエッセンスを引き出し、読者のみなさまに提供します。



Vol.1 高野 登(たかの のぼる) 氏

●元リッツカールトン日本支社長。09年に退社後「人とホスピタリティ研究所」を設立。

Vol.2 弘兼 憲史(ひろかね けんし) 氏

●社会派漫画家。課長からスタートした代表作『島耕作』シリーズは、会長編を連載中。

Vol.3 岩田 松雄(いわた まつお) 氏

●元スターバックスCEO。現在、リーダーシップコンサルティング代表。

Vol.4 高橋 ゆき(たかはし ゆき) 氏

●家事代行サービス・ハウスクリーニングサービス ベアーズ 専務取締役。

・未来企業探訪

インタビュー取材を通してこれからのビジネスのヒントや、選ばれ続けるヒントや秘訣を探っていきます。



Vol.1 株式会社ユーグレナ

食用のみならず飼料や航空燃料としても注目されるミドリムシ。その開発や販売で急成長を続ける。

Facebookページ

<https://www.facebook.com/focussystems>



主に就職活動中の学生や若年層の個人投資家をターゲットとした情報発信を目指しており、

- ・会社のCSR活動
- ・決算発表の告知
- ・WEBマガジンの掲載の告知
- ・採用情報の告知

などを行っております。



ラジオ番組提供

時代の価値観を切り取るラジオ界の超新星プログラム!

BUSINESS LAB.

毎週日曜日 朝 6:00~7:00 ON AIR!!

InterFM 76.1MHz TOKYO 76.5MHz YOKOHAMA

そこに、仕事道はあるか?

選ばれ続ける仕事の担い手たちが持つ「道の精神」。この番組では、彼らが大切にしているその価値観から、我々が展開すべきビジネスのヒントを探求します。

ナビゲーター 山岡 百合子
ホスト/ナビゲーター 中島 セイジ

多くの方に「フォーカスシステムズ」という会社を知っていただくために、インターFMのラジオ番組、「ビジネス・ラボ」のスポンサーになっております。

こちらは、最近注目のビジネスや会社を取り上げ、ご紹介する番組です。

毎週日曜日 6:00~7:00
万一听き逃しても、下記ホームページにてアーカイブでお聴きいただけます！
<http://www.q-b.co.jp/businesslab/>

**本日は、ご多忙の中ご来場賜り
ありがとうございました。**

**今後とも、ご指導ご支援のほど
お願い申し上げます。**

